

**メディアコースのユニーク講義を紹介 20 日の学長会見で村上ゼミ**



20 日午後の茨城大学での三村信男学長の定例記者会見で、人文学部村上信夫ゼミ所属の 2 年生の女子学生 5 人が助っ人として参加、人文学部のユニークな講義を記者らに紹介した。

会見は、午後 2 時にスタート、三村学長が、研究や教育の現状を紹介した後に、村上ゼミ員による特別企画の発表となった。

紹介した講義は、人文コミュニケーション学科メディア文化コースの専門科目で、同コースで随一の人気を誇る猪俣紀子准教授の「ポピュラー文化論Ⅰ」のほか、村上信夫教授の「広報論」、古賀純一郎教授の「政治とメディア」の 3 つ。

それぞれの説明に 1 人のゼミ員を割り当て、司会は別の学生が担当した。

会見には、朝日新聞、毎日新聞、茨城新聞などの記者が出席、毎日新聞や茨城



2015 年 2 月 27 日

新聞の記者から、「ポピュラー文化論Ⅰの具体的な中身を教えてほしい」、「最近の大学生は新聞を読まなくなったと聞くが、新聞購読の現状を聞かせてほしい」などの質問があがった。

村上ゼミが、今回の学長会見にかかわるようになったのは、茨城国体広報・県民運動専門委員会委員長なども務める村上教授が、メディアコースで後期に開講した「広報論」の中で、本部の広報室の協力を得て大学広報のプレスリリースを作成したのがきっかけ。



三村学長や広報室から「会見の場で何かやってみないか」との誘いがあり、今回、実現した。

村上ゼミの5人は、演出などを担当したリーダー役の3年生和田翔太さんの

指導で、2年生のゼミ員が記者会見を想定した台本や記者への配布資料、会見での想定問答などを作成し、会見に臨んだ。

当日は、6人は、同日午前10時に会場に集合、米倉達広・広報室長（副学長）らと打ち合わせを重ね、午後には、リハーサルを実施し、万全の態勢を整えた。

会見終了後に、村上ゼミ員らは、三村学長から「2年生でもここまで（完成度の高い会見の設定が）できるのか」との労いの言葉を掛けられたほか、懇談の席では、一部の記者から「新学期に開講したら取材したい」との激励の声を掛けられた。ゼミ員らは、新学期のスタートを楽しみにしている。



（終）